

— あしあと —

昭和29.9.11

浜松に初めてボーイスカウト隊
結成 (於 大厳寺)

昭和29.11.20

浜松地区委員会発足
(於 大厳寺)

昭和49年は——

第6回日本ジャンボリーの年

昭和49年 8月1日～6日

北海道 千歳市千歳原

浜松地区結成満20周年

—今年もしっかりやろう—

浜松地区結成満20年記念特輯号



中田島海岸に於て昭和49年の初日を迎う

祝 辞

ボーイスカウト静岡県連盟

理事長 稲森利次

ボーイスカウト浜松地区の20周年を迎え心より御祝福を申し上げます。

時にこの20周年の歴史には幾多の苦難があり、また大きな試練があったことと思います。特に戦後における急激な国内情勢の変化に伴ない国民の礼節は乱れ、美しい友誼もうすれ、そしてまた道徳は退廃するなど国家の再建のために由々しい事態を生じましたことも否定できない処であります之が為、新しい国造りの問題が提唱されました。

国造りは先ず人造りからと言う言葉が叫ばれるようになったのもまた当然のことであり、わけても青少年の健全なる育成というものが重要な課題となって参ったのであります。

こうした時に青少年の教育尤も優秀なボーイスカウト運動に身命をとして活躍されて参りました団委員をはじめ、リーダー諸君、御父兄の皆さんを中心として結成以来20年間一致団結してスカウト諸君に対し立派な活動をつづけてこられた社会的貢献は極めて大きく、ここに深い敬意を払い心から感謝の意を表するものであります。また次代を負うスカウト諸君への期待は絶大であります。

ここにスカウト諸君もこの意義ある20周年記念を迎えると共に、心気を一新して名誉の高揚に更に引続いてご精進を賜われますようお願い申し上げます。

最後にボーイスカウト浜松地区20周年の限りない発展といやさかを心からお祈り申し上げます。

新春弥栄

地区委員長 内田時世

明けましておめでとう。物心両面にきびしい、そして、きびしさを要求される、昭和49年を迎え地区関係の皆さん、ボーイスカウトの諸君、元気に心もあらたにしておられることと存じます。

本年は 160余名の選ばれたスカウト諸君が第6回日本ジャンボリーに参加します。浜松地区といたしましては、北海道という国内にては最長の遠隔地への参加でありまして、内外状況の楽観を許せない、きびしい世相の時期に当り、参加各位の耐乏と一層の協力と団結とにより、良好な結果をもたらすことを期待しています。

念願であった年長隊(SS)の活動への足がかりも出来て各団のSS隊の活躍がボーイスカウト運動の真の姿と考えられている。此の教育の目的である、良き公民となるという、本来の姿が実現されることに明るい希望を託して昭和49年を迎えて弥栄を祈りたい気持ちで一ぱいです。

カブ・ボーイ・シニアと子供達に希望と夢を与え、すばらしい日本の将来を託する事が私達の願いであると確信しています。関係の皆さんの奉仕と努力を更に願ってやみません。本年も充実した幸の年でありますように皆さんの御健闘をお祈りいたします。



☆☆オリオン星座を仰ぐ頃☆☆ 県コミッショナー

内田 嘉一

- 今年もオリオン星座の輝やく頃となった。
なんと美しいオリオンであろう。
三つの星を囲む長方形の布陣、少年の頃から仰いで来たこの星は、今も昔も一つも変わらず、秩序正しく真東から表われて真西に毎晩歩みを続けて来た。それどころか、この地球上に人類が出現した大昔の夜だって、この星座は今と同じように輝いていたのだ。
- この星座を仰ぐ季節は、スカウティングの、夏の訓練が終わってその成果がスカウト達の血となり肉となる頃である。正月を間にはさんでの前後2〜3ヶ月が其のシーズンである。
- 班集会の夜も更けて、さよならを告げて門口を出て、上空を見ると、中天にこの壮大なオリオン星座がほほえんでいる。
そういう思い出を持つ指導者は沢山いるに違いない。
- この三つ星を囲んでいる黄色の一等星ベテルゲウスは、地球からの距離約3

00光年、直径は太陽の460倍、青白い光の一等星リゲルは465光年の彼方に、太陽の直径の35倍だと知って宇宙の広大さに今更に驚くばかりである。

- 肌寒い或る夜、スカウト達と一緒に大地に寝転んで大空を仰ぎ、この壮大にして厳粛な大宇宙の、秩序と神秘とバランスを語り合うのも大いに意義あるものではあるまいか。
- この地方にスカウティングが始まって20周年、長い地球の生命から見れば、極めて僅かな期間ではあるが、この地方で生活をしている私達にとっては実に有意義な、大切な20年であったと思う。それは世界につながるスカウト運動が未来へ発展する為の基礎がつくられた20年であるからである。
- 1974年の年頭に当り、スカウト関係者全員が、将来への大発展の為への決意を新にしたいものである。
幸福な人生、平和な世界を築く為にはこの運動の大躍進しか考えられない。

- 皆で協力してこの地方のこの運動の発展を期して努力しようではありませんか。
- 今年は始めて本土を離れての第6回日本ジャンボリーの開催される年です。
本部奉仕の人達を別にして、静岡県連として1,400名、浜松地区から160名の参加と、かなり多くの見学団が予想されます。
スカウティングはジャンボリーの為にあるものではないが、日頃のスカウティングにしっかり励んで、堂々と参加して貰いたいものである。
- そして、今年はシニア隊の試行隊の実施が始まる年です。悩み続けて来たシニア活動に新しい光明が示されて、いよいよシニア隊長の腕の見せ所であるし、シニアスカウトに夢と希望を与える年でもあります。
カブもボーイもシニアもそれぞれ原理は一つ。リーダー諸兄に、更に高く深い研鑽を期待して止みません。
- 1974年が全ての面で飛躍、発展の年でありますように。



地区大会に於て柴田隊長と対する宮沢隊長

浜松のボーイスカウトが成子町に発足し木全大孝先生や、内田県コミッショナー内田六郎先生、吉沢純道先生のお骨折りで何回かの講習会や説明会を開催して2団、3団、4団が相ついで作られ地区の形を整えて来た、その時代から20年になる。

私も吉沢先生の第一幼稚園及び本堂を会場に開かれた何回目かのボーイスカウト講習会に出席して、本堂に宿泊した。ハイキングはお寺の裏山を一巡りしたことをおぼえている。1団のお母さん達が食事のめんどろを見て下さった。尾崎先生や井野先生が本部員として奉仕された。それから数年経って5、6団そして私達は住吉町を中心に7団を結成した。

当時講習会は県連から主任講師、その他を迎え、地元で奉仕出来る人は内田さん(当地地区コミ)唯一人であった。私や浜名地区コミの鈴木順一さんなどが本部員として奉仕できるようになったのは何年か後のことである。その頃の総会と云っても予算決算と云う程のこともなく凡て内田さんまかせでやれる範囲内でやっていた。8、9団が出来、篠原が10

20周年と21年目

浜松地区副委員長 宮沢 広士

団として編入になると、地区も大分大世帯となり事務局のあり方が重要な問題になって来た。浜名地区も団数が増加して独立することになった。次で天竜や周智も連絡上不便が多い為に独立することとなった。11団が遠鉄に、7団から12団が独立、13、14、15団が発足し16団もうぶ声をあげた。17団は地区ローパー隊として発足、18、19、20、21団に加え浜北に4ケ団、今日では小さな県連以上の団数をかぞえる程の地区に成長している。地区内だけで講習会を開催出来るスタッフがいる。引佐1、2団、細江1団も加えると浜松地区は県下でも最大の地区である。

11月22日から4日間、山中野営場で行われた日連トレーナーコースに参加してみても5名の人員を送りこんだのは東京と静岡の県連だけであることからみても、静岡県はスカウト活動の盛んな県であることが解る。その中で浜松地区がトップを行っている訳だから、日本でも有数の地区であると言うことが出来るのではないだろうか。

21年目を迎えて、先ず実現したいことはCS隊のない団に必ずCS隊を作ることである。CS年令の子どもは心理的にみても教育を受入れる年頃であってBS年令からみれば教育しやすい年令である。この子供達をいちはやくスカウト教育に入れることは国家的見地からみても重要

なことである。そして、その次は欠番になっている団号の地域に新しく団を設置することである。かつては、その地域の要望によって生れた団である。今でも住民たちの要望がある筈である。今年は古い団号の復活でなく新しいナンバーの団号として、その地域に新団を作ることである。第3に私の要望したい事は学校制度に順じて4月から新しい隊の編成になるので4、5、6月の3ヶ月の中にいそがしいけれどもデンマザー、デンチーフ団委員の講習会を実施して正しいスカウティングを正しい組織の流れの中で実行出来る様にしたい。新任のDMやDCや団委員が、もしスカウティングの本筋を知らないで自己流の考えで、あやまった考え方をスカウトに押しつけたら、何か点取虫主義や軍隊教育的やり方や、いろいろな批判が生れるにちがいないと思う。そしてスライド方式の講習会はいわば説明会であってスカウト運動を広める為に一般的に行われるものであって、あれだけではリーダーの資格にはなり得ないものであるから、指導者としてはどうしても研修所へ入所してもらいたい。毎回何かの人が、どんどん研修所へ入所してもらいたいと言う希望が第4番目である。

以上いろいろ申しのべましたが地区発足21年目を迎え創設当地の先輩諸兄に心から敬意を表しつゝ、将来に向って邁進したいと思う。

名 譽 役 員 浜 松 市 長 平山博三	浜松地区協議会長 内田六郎	浜松地区委員長 内田時世
名 譽 役 員 三ヶ日町長 竹上善博	静岡県連コミッショナー 内田嘉一	中央審議会議員 県連理事 浜松第16団育成会長 三笠給食(株) カネイチ産業(株) 市川重雄
日本ジャンボリー IYASAKA 浜松第20団 団委員・リーダー 一同	賀 正 浜松第15団 育成会長 林 良太郎 BS第1隊長 名倉惣一郎 団委員長 山中 将司 BS第2隊長 市川 隆 副委員長 袴田 栄治 S S 隊長 平野 武彦 〃 〃 川瀬愛次郎 R S 〃 原口 芳彦 CS隊長 山下 虎男	浜松第16団 謹 賀 新 年 育成会長 市川 重雄 団委員長 新谷 豊
浜北第1団 監事 金原 三夫 馬淵 要人 井坂小外坂リ宮山米伊松團育成会 口東倉山東ダ木川沢藤本委員成会 清江茂吉信三利吉芳員副會 司美嘉保毅男郎治勝郎會長 坂平山布奥硯国伊加久杉小横 東野下施野田井藤藤保田山杉田 慶正正隆嘉昭達悦幸友清 一昭義三一入浩己夫次男弘雄	賀 正 浜北第4団 リ団育ボー ー隊成カ ダ委員会ウ ー員会ト 一 同	浜北第3団 健康進指導組織財政副団会副育 安全歩行者警政張委成 隊事務安行事務張委員會 隊長隊長隊長隊長隊長隊長 高沢高森伊伊竹野市紅高平竹阿中山広平大 林木田島藤藤内中川瀨林野内部野下瀬松城 紀達史里保二敏信国信信叔岩太宗利 雄務二仲子子夫夫吾夫雄雄夫雄郎真八
浜松市高町一 半僧坊別院 正福寺 後藤慧眞 電話 52-4421		
浜松第12団 S S 隊長 三輪悦爾 BS2隊長 石野研二 BS1隊長 望月 馨 C S 隊長 宮沢広士 副団委員長 金森武夫 中嶋圭介 団委員長 加藤房之輔 育成会長		

[illegible]

さらにスカウト運動

特別寄稿

この運動があらゆる青少年の社会教育の中で組織的にも教育的にも優れている事はお互に充分理解しているし、又第3者にもある程度理解してもらっているつもりですが、まだ無理解な人や反感を持っている人の案外多いのには驚くと同時に、我々としても、この運動に対して謙虚に反省もして行かねばならないと思います。

ここで此の運動に携わっている運営面・教育面で奉仕をして居られる皆様に、B-Pの残されたスカウティングと云うすばらしい教育について、自信を持って望んでいたきたい気持ちから、スカウト浜松20周年記念号を拝借して私のつたない研究収録ですが申上げて御参考にご供したいと思ひます。

皆様もすでに御承知の、日連発行倍増計画資料「ボーイスカウト案内」の中表紙に書いてある、かつてのロンドン大学のレイモンド博士の名言は、正に学校教育者に対する大きな示唆でもあるし、我々スカウト運動者に対する誠に大きな励ましでもありますと同時に、次に掲げる数名の教育学の泰斗が提唱する新教育法が、ことごとくスカウト教育を肯定している事を知っていたき、さらに自信を持ってスカウト運動に御奉仕願ひ度いと思ひます。

あるかを知る必要があると思ひます。この教育法を実施したヘレン・パーカースト女使は1878年に米国に生まれ、20才で田舎の学校に奉職している内に、肢体不自由児にも明るい生活が出来る様な教育を施してやりたいと考え、数年後中学校・師範学校に奉職中、たえず特殊教育法を研究している内に、伊太利のモンテッソーリ女史が自発活動を主とした自由教育を児童に施し、すばらしい成果を揚げている事を知り、1914年(大正3年)親しくモンテッソーリ女史の指導を受け、個性啓発教育につき多くの示唆を得、帰米後、肢体不自由児学校で実験指導の結果予想以上の効果があったので、1920年マサチューセッツ州ダルトン町の中学校で結果発表をし教育界から非常に称賛を浴びました。(このすばらしい発表を記念し、この案をダルトン・プランと称する事になりました) その特長とする所は○生徒が自分で実験観察して学ぶ事(スカウトの野外に於ける観察の訓練と全く同じで与えられた課題を観察し行動し評価反省し次に進むやり方) ○学校に社会生活の共同精神を取り入れ生活の実習場とする(スカウトの班制教育のねらいと全く同じ) ○教師は、ただこれら生徒を正しく補導する(スカウトの良きリーダーの安楽椅子案と同じやり方) この自発活動と観察及び実験による自啓自培の教育方法がスカウティングと同じ方法である所

に自信を持って 県連副連盟長 尾崎 忠次

思う次第であります。

まず始めにスカウト教育の全面的理解者である伊太利の生んだ偉大なる女流教育家マリア・モンテッソーリ博士の事をお話したいと思います。此のモンテッソーリとB-Pとは教育的交流について深い関係のある間柄です。つまりBS教育の原流を訪ねる場合、モンテッソーリは見逃してはならない人であるからであります。

女史は(1870~1950)ローマ大学で医学を修め、伊太利最初の女流医学博士であり大学で研究中、低能児教育に注目し、異常児の取扱は医学だけでは駄目だと知り教育界に乗り出し、低能児学校に於て彼等に個性啓発教育を施し非常な成果を揚げ、この教育が低能児にこんなに効果があるならば正常児にこれを施せば、どんなにすばらしい効果を揚げる事が出来るだろうと1907年(B-Pのブラウンシーアイランドに於ける実験キャンプを行なった年)に伊太利のサン・ローレンゾに世界的に有名な「こどもの家」を建設し自分の考えた教育法を大胆に実施し非常な好評を博し、これが全世界に喧伝され大正の前期に日本の教育界でも大きく取上げられました。

に我々は注目したいのであります。日本では大正中期中以後このダルトンプランが発表され、我々スカウト指導者達はスカウト教育に一層の自信を持つ様になりました。

次に揚げたい人はジョン・デューイ博士であります。今日の日本の新教育法はアメリカの碩学ジョンデューイ教授の学説に基礎を置いている事は言を待つまでもありませんが、特に昭和20年以後米国が日本の為に施した自由主義教育、云い変えれば民主的教育で、一般学校教育のみならず社会教育運動者の間でも高く評価され、特に我々ボーイスカウト運動者はこの教育の理念とスカウト教育法とが一致している事に驚嘆の目を見張ったのであります。

デューイは丁度B-Pと同じ1857年頃の誕生で、民主的個性啓発教育を理論付けたのがこのジョン・デューイで、これと全く時を同じうして実際活動としてのスカウティングにこの教育法を実施したのがB-Pです。しかし、この偉大なる二人の理論家と実家がはたしてどの程度の交流があったかは、はっきりして居ませんが誠に奇しき因縁であると思ひます。

このジョン・デューイ博士に続いてアメリカ民主主義教育・個性啓発教育の代表者とも云われるジョン・デューイ亡き後の教育哲学界の最高峰であるウイリア

ム・ハード・キルパトリック博士は1871年生れで、B-Pより14才若いこの教授(コロンビア大学名誉教授)は、全世界にその名を知られ、日本にも昭和2年と同4年来訪し、日本の教育界も博士の新教育法を競って取入れましたが、(主として私学で)我がスカウト運動者はB-Pのスカウト教育が、現代の新しい教育法より少しもおいていない事を立証され益々自信を深めたものであります。

この米国の生んだ偉大なる2人の教育学者の学説を基盤として教育学者として全世界に名声を博しているニューヨーク大学のホーン教授(現存)は学校に於ける新教育法はこうあるべきである。とその特長25項目をあげ、現在世界の自由主義諸国の教育界に発表し注意を喚起しましたが、その25項目中18項目はすでにスカウト教育に於ては1907年以来現在まで変る事なく実施している事を思い誠に心強い感じがいたします。

ここにホーン教授の25項目を列記致しますが、この内丸で囲んだ項目がスカウト教育に於て実施している項目であります。

① 児童を中心とすること
② 児童生徒の教育参加
③ 個人尊重
④ プロジェクトメソッドの採用
⑤ デスカッションの採用
⑥ ためす事によって学ばせる。

ここにホーン教授の25項目を列記致しますが、この内丸で囲んだ項目がスカウト教育に於て実施している項目であります。

ここにホーン教授の25項目を列記致しますが、この内丸で囲んだ項目がスカウト教育に於て実施している項目であります。

- ① 児童を中心とすること
- ② 児童生徒の教育参加
- ③ 個人尊重
- ④ プロジェクトメソッドの採用
- ⑤ デスカッションの採用
- ⑥ ためす事によって学ばせる。

次頁につづく

さらにスカウト運動 に自信を持って

県連副連盟長 尾崎 忠次

特別寄稿

この運動があらゆる青少年の社会教育の中で組織的にも教育的にも優れている事はお互に充分理解しているし、又第3者にもある程度理解してもらっているつもりですが、まだ無理解な人や反感を持っている人の案外多いのには驚くと同時に、我々としても、この運動に対して謙虚に反省もして行かねばならないと思います。

ここで此の運動に携わっている運営面・教育面で奉仕をして居られる皆様に、B-Pの残されたスカウティングと云う素晴らしい教育について、自信を持って望んでいただきたい気持ちから、スカウト浜松20周年記念号を拝借して私のつたない研究収録ですが申上げて御参考に供したいと思ひます。

皆様もすでに御承知の、日連発行倍増計画資料「ボーイスカウト案内」の中表紙に書いてある、かつてのロンドン大学のレイモンド博士の名言は、正に学校教育者に対する大きな示唆でもあるし、我々スカウト運動者に対する誠に大きな励ましでもありますと同時に、次に掲げる数名の教育学の泰斗が提唱する新教育法が、ことごとくスカウト教育を肯定している事を知っていただき、さらに自信を持ってスカウト運動に御奉仕願ひ度い

あるかを知る必要があると思ひます。この教育法を実施したヘレン・パーカー女史は1878年に米国に生まれ、20才で田舎の学校に奉職している内に、肢体不自由児にも明るい生活が出来る様な教育を施してやりたいと考え、数年後中学校・師範学校に奉職中、たえず特殊教育法を研究している内に、伊太利のモンテッソーリ女史が自発活動を主とした自由教育を児童に施し、素晴らしい成果を揚げている事を知り、1914年(大正3年)親しくモンテッソーリ女史の指導を受け、個性啓発教育につき多くの示唆を得、帰米後、肢体不自由児学校で実験指導の結果予想以上の効果があったので、1920年マサチューセッツ州ダルトン町の中学校で結果発表をし教育界から非常に称賛を浴びました。(この素晴らしい発表を記念し、この案をダルトン・プランと称する事になりました)その特長とする所は○生徒が自分で実験観察して学ぶ事(スカウトの野外に於ける観察の訓練と全く同じで与えられた課題を観察し行動し評価反省し次に進むやり方)○学校に社会生活の共同精神を取り入れ生活の実習場とする(スカウトの班制教育のねらいと全く同じ)○教師は、ただこれら生徒を正しく補導する(スカウトの良きリーダーの安楽椅子案と同じやり方)この自発活動と観察及び実験による自啓自培の教育方法がスカウティングと同じ方法である所

思う次第であります。

まず始めにスカウト教育の全面的理解者である伊太利の生んだ偉大な女流教育家マリア・モンテッソーリ博士の事をお話したいと思ひます。此のモンテッソーリとB-Pとは教育的交流について深い関係のある間柄です。つまりBS教育の原流を訪ねる場合、モンテッソーリは見逃してはならない人であるからであります。

女史は(1870~1950)ローマ大学で医学を修め、伊太利最初的女流医学博士であり大学で研究中、低能児教育に注目し、異常児の取扱は医学だけでは駄目だと知り教育界に乗り出し、低能児学校に於て彼等に個性啓発教育を施し非常な成果を揚げ、この教育が低能児にこんなに効果があるならば正常児にこれを施せば、どんなに素晴らしい効果を揚げる事が出来るだろうと1907年(B-Pのブラウンシーアイランドに於ける実験キャンプを行なった年)に伊太利のサン・ローレンツに世界的に有名な「こどもの家」を建設し自分の考えた教育法を大胆に実施し非常に好評を博し、これが全世界に喧伝され大正の前期に日本の教育界でも大きく取上げられました。

に我々は注目したいのであります。日本では大正中期以後このダルトンプランが発表され、我々スカウト指導者達はスカウト教育に一層の自信を持つ様になりました。

次に揚げたい人はジョン・デューイ博士であります。今日の日本の新教育法はアメリカの碩学ジョン・デューイ教授の学説に基礎を置いている事は言を待たずでもありませんが、特に昭和20年以後米国が日本の為に施した自由主義教育、云い変えれば民主的教育で、一般学校教育のみならず社会教育運動者の間でも高く評価され、特に我々ボーイスカウト運動者はこの教育の理念とスカウト教育法とが一致している事に驚嘆の目を見張ったのであります。

デューイは丁度B-Pと同じ1857年頃の誕生で、民主的個性啓発教育を理論付けたのがこのジョン・デューイで、これと全く時を同じうして実際活動としてのスカウティングにこの教育法を実施したのがB-Pです。しかし、この偉大な二人の理論家と実家家はたしてどの程度の交流があったかは、はっきりして居ませんが誠に奇しき因縁であると思ひます。

このジョン・デューイ博士に続いてアメリカ民主主義教育・個性啓発教育の代表者とも云われるジョン・デューイ亡き後の教育哲学界の最高峰であるウイリア

ム・ハード・キルパトリック博士は1871年生れで、B-Pより14才若いこの教授(コロンビア大学名誉教授)は、全世界にその名を知られ、日本にも昭和2年と同4年来訪し、日本の教育界も博士の新教育法を競って取入れましたが、(主として私学で)我がスカウト運動者はB-Pのスカウト教育が、現代の新しい教育法より少しもおくれている事を立証され益々自信を深めたものであります。

この教育法の特長は、少年児童をして心理的・生理的に生活機能の発達を図る為、感覚器官の練習を中心に自発活動を進め、筋肉と五感(視・聴・嗅・味・触の五つの感覚)の訓練とそれによる試行錯誤を伴う作業を奨励し非常な効果をあげたのであります。

B-Pとモンテッソーリとの教育的交流がいかに深かったかと云う事は次のモンテッソーリに、この教育の成果について質問した、ある教育家に対する女史の答えで充分理解出来ると思ひます。「女史の教育を一般青少年にいかに応用したら良いでしょうか」と云う質問に対し、女史は即座に「それは英国のペーデンパウエルが創設したスカウト教育です。この教育こそ正常な児童に授ける教育の自然的継続です。私は現在「子供の家」以外でこのスカウティングほど私の考えとピッタリ合ったそして素晴らしい成果を揚げている教育を他に知りません」とはっきり言明しています。

又日本に大正の末期から昭和の始めにかけて教育者の間で盛に問題になった米国のダルトンプランと云う教育法についても、我々スカウト関係者はスカウト教育とこの教育法と如何に深いつながりが

あるかを知る必要があると思ひます。この教育法を実施したヘレン・パーカー女史は1878年に米国に生まれ、20才で田舎の学校に奉職している内に、肢体不自由児にも明るい生活が出来る様な教育を施してやりたいと考え、数年後中学校・師範学校に奉職中、たえず特殊教育法を研究している内に、伊太利のモンテッソーリ女史が自発活動を主とした自由教育を児童に施し、素晴らしい成果を揚げている事を知り、1914年(大正3年)親しくモンテッソーリ女史の指導を受け、個性啓発教育につき多くの示唆を得、帰米後、肢体不自由児学校で実験指導の結果予想以上の効果があったので、1920年マサチューセッツ州ダルトン町の中学校で結果発表をし教育界から非常に称賛を浴びました。(この素晴らしい発表を記念し、この案をダルトン・プランと称する事になりました)その特長とする所は○生徒が自分で実験観察して学ぶ事(スカウトの野外に於ける観察の訓練と全く同じで与えられた課題を観察し行動し評価反省し次に進むやり方)○学校に社会生活の共同精神を取り入れ生活の実習場とする(スカウトの班制教育のねらいと全く同じ)○教師は、ただこれら生徒を正しく補導する(スカウトの良きリーダーの安楽椅子案と同じやり方)この自発活動と観察及び実験による自啓自培の教育方法がスカウティングと同じ方法である所

ここにホーン教授の25項目を列記致しますが、この内丸で囲んだ項目がスカウト教育に於て実施している項目であります。

- ① 児童を中心とすること
- ② 児童生徒の教育参加
- ③ 個人尊重
- ④ プロジェクトメソッドの採用
- ⑤ デスカッションの採用
- ⑥ ためす事によって学ばせる。

次頁につづく

- ⑦ 作業—学習—ゲーム化のプラン
- ⑧ 形成的学級教授の縮減乃至廃止
- ⑨ 内的動機に基礎を置く
- ⑩ 教師が主動しない
- 11 学校の生活化
- 12 校舎の改革（学級教授が廃止され校舎の形態を変え図書館・実験室・作業工場の結合が校舎）
- 13 学校を社会生活の中心とする
- ⑭ 児童生徒の興味を中心とする
- ⑮ 自由訓練（強制訓練を避ける）
- ⑯ 課外活動（カリキュラムを本体化する）
- ⑰ 論理的方法よりも心理的方法
- ⑱ 教科課程の改修
- 19 知能検査の採用
- 20 下級中学制の採用
- ⑳ 学力測定の採用
- ㉑ 職業による教育重視（職業の為の教育ではない）
- ㉒ 社会心理の涵養
- ㉓ 国際心の涵養
- ㉔ 経験の改造を教育目標とする

以上25項目中〇で囲ってない項目についても、スカウト教育に置き換えて考えて見ると皆肯定出来る項目ばかりであります。

＊こうして19世紀後半から現在にかけての個性啓蒙教育の権威者達の提唱がB—Pによって地に根を張って生長しつつある事は此の運動に携わる我々として益々スカウティングに自信をもって進むと同時に、もっと深く探求し、少年達の将来の可能性を生かしてやる様スカウト運動をさらに強力に押進めて行きたいものがあります。 おわり。

浜松第12団の自慢話

浜松第12団カブ隊長 宮沢広士

浜松第12団10周年の式典には多数の友隊をお迎えして盛大に挙行することが出来ましたことを深く感謝申し上げます。

尾崎先生はじめ長野県茅野、飯田、及び東京、愛知県半田市からも、はせ参じて下さった事はほんとうに感激でした。

団委員長は挨拶の中で五つの自慢話をいたしました。それは

1. 毎月団会議を欠した事がないこと。
2. よそから寄附をうけないで全部自力で10ケ年を通したこと。
3. 殆んどすべてのチャンスに海外派遣者を出していること。
4. C S 隊の鼓隊が中断されないで続いていること。
5. B S 隊のトランペット隊が一応完成したこと。

などをあげましたが、その上に、もう二つ程我ながら自慢出来ることは団に事務局があって団委員長夫人が事務局長として10年間熱心にその任に当って下さった事が非常に大きな蔭の力になっていることであります。

登録事務一切、団行事の凡てのお世話



を一手に引受けて毎年売店やバザーのきりもりを引受けて下さった事は仲々出来るものではない偉大な功績だと感謝しております。

もう一つはシニア隊が式典の司会をした様に団ニュースの発行、その他団運営の一部を自発的に行っていることです。

今年は10周年と云うことで当初からすべての行事を10周年記念行事と考えて行なっていました。夏の茅野、飯田、細江、浜松、4ヶ団C S 隊舎営、10月の飯田1団訪問、秋葉山登山（B S・C S）をはじめ鯉のぼりの作製、絵画展、カブ劇場など凡て毎月のテーマの中でこなしただけです。品物の販売や食品の売店などは毎年記念日の行事として行なっているもので特に10周年として行なったものではありません。この収益金は団の運営に多大のプラスになっております。原価と人件費が殆んど0に等しい訳ですから天候に恵まれなくても実行して赤字になることはまずないでしょうか。兎に角これらはすべて団のすべての人の奉仕の精神から、なり立っていることで強制すべき事柄ではない筈ですから団家族の意識を常に盛り上げる様、年間を通じての努力が必要です。

いろいろの意見やいろいろの行違ひも生まれます。凡てスナリうまくゆく訳ではありませんが、それらを乗り越えて皆んなで何かをやるのが大切です。その行事自体が又新たな団結を作ってゆくものだと思います。

新春歩こう会

新年あけまして、おめでとうございます。昭和49年の元旦は、波も穏やかな遠州灘のかなたから昇る、初日によって、幕があげられた。

大晦日は年少隊とリーダーによる、村内4ヶ所の神社の清掃作業と、少年隊は元旦営火の準備に、倉松海岸の砂丘を越えての新運び作業と、それぞれスカウト達は、つめたい風の中で、頬をまっかにして、明日の新春歩こう会の準備に協力した。

可美村の新春歩こう会は、昭和43年の正月から始まり、以降毎年1,000名から1,500名の地域住民が参加して、行われて来た。役職者の新春祝賀式を地域の全住民に拡げる事を目的として、月例の日曜歩こう会を連結させたものである。今では村の慣例行事の一つとして、多くの人々に年頭の心構えをつくる場として好感を持たれている。

新春歩こう会は、元旦の午前5時30分に東若林、若林、増楽、高塚の4つの神社に、三々五々住民が初詣をしながら参集し、各区毎に海岸を目ざして、約4軒

の道を歩く。子供会、スポーツ少年団、ボーイスカウト、一般住民と文字通り老若男女が、隊列を組んで、日章旗、各団体旗を先頭にかかげ、未だ明けやらぬ元旦の朝の闇の中へ、白い息をはきながら出発していくのである。

ボーイスカウトは団委員長をはじめ、リーダー、スカウト全員が正装で、年少隊は隊列の中へ、少年隊とリーダーは、交通指導隊員と共に交通の安全をたしかめながら進む。浜松バイパスを横ぎる時例年ならば初詣に行く車のライトが、長蛇の如くつながっているのだが、今年はそれもなくて、時折り2・3台の車が通り過ぎるのみであった。

ようやくうすばんやりと空が白みはじめ、お互いの顔が判別出来る頃になると砂丘にさしかかる。4区の隊列は、各々別の道から砂丘を越えて海岸へ出る。倉松海岸の会場に燃えさかっている営火を目ざして、西からも東からも、砂浜に長い列を作って集結する。

潮騒と磯の香が営火の力を弱めたかと思うと、東の空が次第に明るさを増し、や

可美第1団 山中 洋一

がてあかね色にそめられた東雲について厳かに初日が顔を出した。お互いの顔は新年の陽光に映えて金色に輝き、健康で迎える事の出来た新春の喜びと感謝がどよめきとなって伝わった。

万才三唱、新年挨拶、体操と行事は進み、菓子の配布が始まる。

あの闇の中を黙々と歩きつづけ、今このまばゆいばかりの朝日がおどる砂浜で心づくしのお菓子が——さ、やかなお年玉ではあるが——子供達の力強い手によって受取られ、はづんだ「ありがとう」の聲がかえって来る。満面に微笑を浮かべた、もらう者の喜びと、渡す者の喜びとが、渾然一体となって、いかにも新春らしいなごやかな雰囲気が、人々の間にただよう。

大自然の演出とも云える荘厳な初日の出の一大ページェントに心を打たれ、こうした人間同志の生きる喜びを肌で感じて、我々は今年も「この道」に更に励まんと決意も新たに、あたたかい太陽の光を背中一杯にうけて、帰路についた。

再び雨にたたられて48年度 浜松地区大会 細江町に於て決行



あいさつされる内田大会々長

昨年、細江町で実施するよう計画されたボーイスカウト浜松地区大会は雨で中止となった関係もあって、48年度地区大会は再び細江町で実施することに挑戦したところ、日曜と云えば雨という48年秋の異常気象にた、られて雨天の下に決行することとなった。

昭和48年10月28日、予め雨天は予想されていた関係もあって当日は混乱もなく各団は貸切りバスや自家用車等で会場であるところの細江町中学校講堂にぞくぞく参集して定刻10時よりや、遅く来て盛大に挙行された。

第1部

入場につづいて柳本地区副委員長の開会宣言、国旗掲揚、国家斉唱のあと故・松方総長、故稲垣隊長の両氏へ黙祷、内田大会々長の別紙の如きあいさつがあり感謝状及び表彰状贈呈が別に示す各氏及び団体に贈られた。

アメリカ、スウェーデン等海外派遣スカウト報告は鶴見君ほかの人達によって行われ、12団のスカウトに依るファンファーレと共に演技に入った。

細江第1団の団員総出演による姫様道中は衣裳の凝り方演出力等大変な準備を要したものであろうと推察されるものであって参会者の絶讃を浴びた。

又浜松第12団、カブ隊の鼓隊のドリルも又訓練と練習の結果の素晴しさを披露してくれた。

カブスカウトに依るワイドゲームは、柴田隊長の扮する徳川家康と宮沢隊長の扮する武田信玄とが率いる徳川武田両軍の激突する三方原合戦、新聞でつくった刀で相手の陣笠につけられたせんべい割りにはカブ諸君の独壇場で大混戦のうちに第1部を終了した。

第2部 スカウト行事

まずカブスカウトは雨天のため講堂のなかで各隊ごとの計画による歴史とゲームコーナーが16コーナー設けられ、これをスカウトは訪ねていろいろ体験しようというものである。

日本の歴史をたずねての演出は浜松第1団の海さちひこ山さちひこ、浜松4団は神代の時代の国びき、浜松第7団は川中島のたたかい、浜松第10団はかんりん丸の太平洋横断、浜松第12団は日本武尊、浜松第15団は那須の与一、第16団は三方原の合戦、浜松第19団は紀の国屋文左衛門、浜松第20団は、いなばの白うさぎ、



姫様道中

感謝状・地区表彰者名簿

(敬称略)

感謝状

浜松市ロータリークラブ

〳東ロータリークラブ

〳北 〳

〳南 〳

浜松市ライオンズクラブ

引佐町 森林組合

浜松市立青少年の家

地区表彰

浜松第12団育成会々長 加藤房之助

〳 第20団育成会々長 棚木 漸

〳 第1団SS隊長 川上文雄

〳 〳 BS隊長 増田征夫

〳 11団SS隊長 古橋照久

〳 〳 BS隊長 鈴木俊輔

〳 〳 団委員 松山直次

〳 12団副団委員長 金森武夫

〳 15団 〳 川瀬愛次郎

〳 16団CS隊長 石津 宏

浜北第1団RS隊長 奥野嘉一

〳 SS隊長 坂東毅

〳 BS隊長 外山吉保

三ヶ日第1団SS隊長 須賀一司



第12団の鼓隊演技

浜松第21団は、ばくだん三勇士、浜北第1団は二宮金次郎の縄ない、浜北第2団は森の石松、浜北第3団は雷電為右衛門、浜北第4団は福沢諭吉、可美第1団は大むかしの遠州、細江第1団の姫様道中等のテーマのもとで、各団工夫をこらした演し物で、さながら縁日の露店なみの繁盛ぶりであった。

ボーイスカウトは雨のなかを細江公園一帯に亘って関所コーナーを突破するオリエンテーリング競技であるが、これに先だって、そなえよつねに、の名札のもと編成ゲームが行われて、それぞれ編成新チームに依って8コーナーを巡回し全員元気よく帰還した。

第3部

再び講堂に集会、成績発表、参加授与、宮沢地区副委員長のあいさつ、実行



ワイドゲーム 三方原合戦



浜松地区大会 あいさつ 大会会長 内田 時世

本年は浜松地区にボーイスカウト教育が始って20年でございます。正に年輪20年。やっと成人になったのであります。今日は浜松地区ボーイスカウト教育成人式の大会と申してもよいと存じます。浜松地区が今日の隆盛を見た事は誠に喜びの極みであります。

今日に至るまで、いくたりの人達の奉仕と善意により、此のボーイスカウト運動がささえられて来たことと存じます。

皆様の中には、此の20年の年輪の一つ一つに苦しめられた事、楽しかった事、色々の思い出に胸一杯の方もおられることと存じます。浜松地区ボーイスカウト運動に、献身的奉仕をされた多数の先輩各位にあらためて皆さんと共に、尊敬と感謝をささげたいと存じます。

今日の此の輝やかしい浜松地区の発展は偏えに関係育成会、団委員、地区役員の皆さんとリーダー諸君の奉仕と協力の賜である事は勿論であります。他方、自治行政当局を始めとする多数の皆様のスカウトに対する御理解と御協力のお陰でありまして、感謝にたえません。

殊にロータリークラブ、ライオンズクラブの皆様の御援助、御協力に對して心より、地区を代表して御礼申し上げます。今後とも変わぬ御指導、御援助をお願い申し上げます。

さて、ボーイスカウト、カブスカウトの諸君、

昨年の地区大会は雨で切角の準備された事も充分に発揮出来なくて、非常に残念でした。今回も雨ですが、スカウトは雨などに負けてはおれません。

諸君は常に、いつでもカブスカウトは「やくそく」をボーイスカウトは「ちかい」を忘れることなく毎日の行動の中に立派に一人一人が、カブは「さだめ」をボーイは「おきて」を実行していることを信じております。

来年は北海道にて第6回日本ジャンボリーが挙行され、160名の諸君の代表が参加します。又、海外派遣のスカウトも今年その参加数が増加して、浜松地区も国際的になって来ました事と思います。

そして、諸君が国際的になって来た事は諸君の責任も非常に大きく、重くなって来たのだと諸君は諸君なりに知ってほしいとおもいます。

自然の中で自からをみがき より良い青少年を育てよう

浜北第3団委員長 山下 総太郎

当団の少年隊が、例年の行事として去る9月1～2日にかけて県立浜北森林公園において秋季野営訓練を実施しました。

このキャンプ場は夏中、深い谷間は、にぎやかな蟬(Cicada)の合唱でうまいました。

また、ここをおとずれる人達も、年々増加していると聞いております。ここは天竜奥三河国定公園の一部に含まれ、附近一帯の県営林 220haを対象としたものであります。県では、自然美の保護保存をはかりながら、保健林、リクリエーションの場として、花木園や、公園会館等施設の整備もされつゝあり、そこは、もう木の香りにあふ赤松の林であります。

皆さん、記憶もあらたに存じますが、雄大な南アルプスを背景に緑の中、県立浜北森林公園において、昭和46年10月24日B・S・G 浜松地区大会が盛大に開催されたところでもございます。

私はこれからも、こうした、すばらしい自然の中でカブ・ボーイ・ガールスカウト等青少年団体の活動が活発に行なわれることを望む一人であります。

本年、前期をふりかえりますと6月1日、西部会場の掛川市にスカウト 3,500名が集い、ボーイ・ガールスカウト静

岡県大会が盛大に挙行されました。中でも尾崎副理事長のご挨拶がわれわれの胸に深く残っております。ラリーの部でC Sの高山神城の戦いも、いくさを偲んで楽しいひとときでした。

スカウト鼓笛隊を先頭に数キロに亘る市中パレードも実にみごとでございました。次には喜びのニュース、9月30日にはB S 浜北4 団にカブ隊が発隊し新しい仲間が巣立ちました。

一方、スカウトの海外派遣も毎年行なわれておりますが第3回オーストラリアベンチャー大会をはじめ、スウェーデンナショナルキャンプ、更には第8回アメリカジャンボリーと機会あるごとに多数が参加して、新しい体験をつくられて、すばらしい有意義な旅行であったことでしょう。私は思うのですが、こうした方々(scout)によって、これからの活動に明るい光りをあたえてくれるものと期待します。

すでに本年のハイライト、B S 浜松地区20周年記念行事が予定されております。今年(1974年)8月1日から8月6日まで第6回日本ジャンボリーが、北海道は千歳市の千歳原で開催されます。どうかこれらの行事も各団とも力を合せて成功させましょう。

私は、いつも思うのですが、これからの新しい住み良い静岡県いや日本を築くためには、より良い青少年を育て、立派な指導者を多く養成することが急務であると考えております。紙面の都合でこのへんにしますが最後に、人間造りの教育として、内容、方法ともにこれ程、優れているものを他に知らない。

県連組織拡張 委員会報告

地区組拡副委員長 山中 将司

①現在日本スカウト人口20万人を48年度より毎年10%づつ増やしてゆこうというのが第1次5ヶ年計画であります。これには現在各隊の定員に満たないスカウト数があればこれを満杯にする。又カブ隊の未結成の団ではカブ隊を発隊させる。

②団委員会の充実強化、ただ今、日連で団委員会シリーズの指導書を作成中であるが、団委員会が強力な中心となって運営をしてゆくことが組織の強化拡充になる。

昭和46年8月東京で開催された第23回世界スカウト会議で全世界スカウトの組織拡大が決議されました。日本連盟もこれに呼応して20ヶ年の長期計画により150万スカウト人口を目差す事になり、第1次5ヶ年計画が策定されました。その第1歩として組織の強化が取上げられました。このような状況のもとに去る12月8日県民会館で委員会が開催され、いろいろと地区別に討議がなされました。

③指導者養成機構の拡充

④指導者養成の受講者を増す

③④は指導者養成委員会にて運営されている。

⑤専従職員制度、ボランティアとしての地区役員、リーダー、にも限度があるので、これらを援助する専門の職員を配置してゆきたい。これも日連で検討中である。将来スカウト 150万人口(現在の7.5倍)を目差すなれば当然必要なことである。

⑥登録事務の簡素化、今後の問題として検討を続けたい。

以上が要約であるが各地区の委員長、コミ、事務長、三者が中心となり組織の強化拡大をはかってゆき、又各地区の再診断を県連が行ない、適切な助言を与え組織の強化に努めてゆきたい。



県立浜北森林公園

「感動の闘魂」

浜松第7団
進歩委員

坪井愛三

10月14日7団ボーイ隊は、毎年春と秋の2回こ6年、三方原養護園(肢体不自由児収容)に清掃奉仕をさせていたでいます。

今年も2度目の奉仕作業にと出かけました。ところが丁度運動会で、多数の家族が応援に参加のため休憩に各室を利用しているので、奉仕は日を改めて来る様中止しました。「見学を」と言う先生のお話で寸時運動場の見学をさせていただきました。

丁度ラグビー競技が行なわれる所で、生徒達の入場する姿が見えて来ました。先頭は歩行器に、また杖に体を託し、歩行できない者は車椅子に先生や保護者に助けられての入場です。

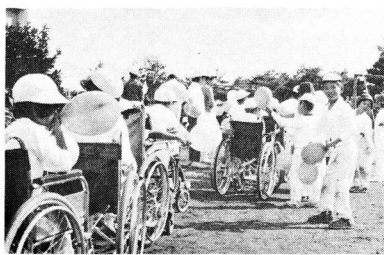
秋空は澄み切り、昨日の雨が嘘の様に何処までも青く今日の運動会を待ち詫た生徒の願いがかなえられた様に美しい。湖北の連山が手に取れそうに近く望める。

赤組、白組各12名づつがラインの中に列ぶ、だが肢体不自由児の生徒には立ってゲームのできる者は半分位、又立てても歩けない者、片手が使えない者ばかりです。他の半数の者は先生や保護者に車椅子から抱えられ、今朝の夜半まで降った昨日の大雨でヌカミのいまだ残る運動場の地面に下される、真白なスポーツボンで泥の中に座り込むのです。

此んな勇気が私達にあるでしょうか、又スカウトにさせる事ができるでしょうか？

試合前のスピーカーから少女の放送が流れ「私達の不自由な体にも皆様に負けない闘志があります。どうぞ立派にできましたら拍手で誉めて下さい」美しい声が流れる。先生のホイッスルの一声で全選手は泥の中にしっかりと座る。いよいよ試合開始です。

先生の手にはボールが高々と青空に向かって掲げられました。私はじっと目をこらして見ました、それは私が想像だになかった枕の様な袋に砂を入れてある



ゲーム入場を待つ肢体不自由児達

物でした。堅いボールでは手の不自由な者では蹴ることも出来ません。私の考えが甘くて先生の掲げられたボールに一瞬驚いた事を一人恥づかしく思いました。

2度目のホイッスルでボールが投げ上げられました。赤帽と白帽の立って居る選手の手がボールを打つゲーム開始です。白帽が片足で義足を引きずり、小脇にボールをはさみ手をぐるぐる回して一生懸命赤陣に向け走る、でもそれは赤ちゃんがよちよち歩く姿の様です。でも彼の姿は、顔は、むき出しに闘志が溢れ、その真剣に走る様には心を打たれます。

それを止めようとする赤組チームの前衛、中衛、後衛の脚が悪く歩くことが出来ず泥の中に座って待つ選手達は彼に向かって体ごと飛びついて行く、だが相手選手の脚に跳され泥の中に転がされてしまう。でも、どの選手も彼に向かって飛つく、二人三人ついに彼は泥の中に押えられる。今日の日の為、両親が買ってくれた真白なユニホームが泥んこです、でも彼はボールをしっかり握り放しません。彼の体の上には赤組の者が三人、四人とかぶさり、ついにボールは赤組に。

赤帽の歩ける者が不自由な片手の脇にボールを挟み、自陣に進む。たちまち白帽が飛びつく、立ったまま動けなくなる、ボールが空を飛び後衛に居る赤帽に渡るその赤帽に白帽が飛びつき体の上にカブさる二人、三人と赤帽は片手でボールを握り、片手で三人を引きづりゴールめざ

して泥の中を這い進んで行く。応援する両親や兄弟の声援、私達が学校で見る運動会と変わりありません。

でも良く見て下さい。この拍手や声援は素晴らしいプレーをする選手に又勝ったチームに送るのではありません。不自由な体を歩ける選手に向かって飛つき跳ねとばされ泥の中を転り又飛ついて行くその斗志に。歩くことが出来なくなり這って敵のボールを追って行く斗志に送られるのです。彼の身体の上には相手チームの選手がダニの様にしがみついている。十糧、二十糧と必死に進む。

ホイッスルが青空に響く、ゴールイン。惜しみなく送られる拍手、そっと目頭を押える母親や叱咤の声を枯す父親。ゲーム中は倒れて動くことができず泥の中に寝たまの選手に手を差しのべる事をしない先生。こんな忍耐が私達リーダーに出来るでしょうか？。何時も奉仕作業の帰り車椅子で「さようなら」と恥づかしそうに言うてくれるあの子供達が。私は体が振るえ、しばし動く事が出来なかった。

帽子が飛び眼鏡が破れ、口や顔に傷をつけ頭の上まで泥だらけ、あの真白だったユニホームが10分の試合で白い所が少ない。君達の両親なら大変ですね、私の感動の心の中には此の子供達の両親はきっとこの泥んこのユニホームを喜んで洗ってくれるだろう。

スカウト諸君、彼等はこれだけの闘魂を一つのゲームに打ち込む、五体完全な君達が大いに見習ってもらいたいと思う。自分の気持を書き表す事の出来ないのが残念。す。

ふり返るとスカウト達は小さい歩けない子供達を砂場に集め砂の芸術展を見せていた。やはりスカウトだと小さな奉仕に喜びを感じた。

今日来た事が無駄でなかった事を感謝し、秋空のさわやかな涼気が体の中を駆け抜けて行く。

中 日 新 聞

昭和48年12月26日 (水曜日)



三十五日、ボーイス
カウト浜松一団(会長
正道同委員長)のカブ
隊(柴田義隆)は「恵まれない
子供たちに」と現金七千二百八十
円を中日新聞浜松支局へ寄託し
た。このお金は、同隊員四十一人
が磨品回収をして一年掛かりでた
めたもの。

(12月23日父兄決議にて寄託した)



ボーイスカウト浜松一団(会長 正道同委員長)のカブ隊(柴田義隆)は「恵まれない子供たちに」と現金七千二百八十円を中日新聞浜松支局へ寄託した。

中田島砂丘, 初日出遥拝式

ボーイスカウト浜松地区恒例の元日、日の出遥拝式を、本年も中田島海岸砂丘にて行った。当日は風は少々あったが気温もあまり低くなく晴天絶好の朝であり、元気なスカウトがうす暗いうちから続々と集り6時45分には全員集合が終るころより金色の太陽は昇り始め6時55分には完全な姿を表わした。集うスカウト、リーダー、団委員約500人（会場全体では2万人）新らしい年1974年を迎え、すがすがしい気持ちで一同敬礼、前夜より設営された国旗掲揚台に向いおそかに国旗掲揚が行われ、連盟歌合唱、地区野営行事竹村委員長より昭和49年は日本ジャンボリーの年である、このすがすがしい気持ちで本年もスカウト活動をやりましょう。続いて三輪地区コミよりエネルギー危機、物資不足の折からスカウトは率先創意工夫、廃物利用等をキャンプの上でも大いに発揮して貰いたい、との挨拶一同新たな気持ちで大砂丘に響かばかりに「弥栄三唱」を送り式を閉じた。続いて地区で準備された甘酒を一同にて賞味しながら各団各々今年の抱負等を語りあった。

前夜来砂丘にテントをはり各地と交信を続けてきた浜松地区JA2ESF、H8名のスカウト、リーダーの活躍も人目をひ



初日出遥拝風景～中田島海岸にて～

いたものである。

当日の参加団は内田県コミ、三輪地区コミ、牧野事務長を始め1、4、6、14、15、16、18、20、21の各団であった。

日連トレーナーコース所感

浜松地区副委員長 宮沢 広士

48年11月22日より3泊4日・山中野営場で行なわれた日本連盟主催のトレーナーコースに参加することが出来た事は私の喜びであり、県連や地区の皆様方のお蔭と深く感謝している次第です。このトレーナーコースはN・T・Cと呼ばれ、NATIONAL・TRAINER・COURSEでウッドバッヂ研究所の所長や実修所の所員となる人を作るコースであって、世界会議によって打出された世界的規準を維持する為に設けられたものであります。そしてどの国も

講習会 INTRODUCTORY
研修所 BASIC
実修所 ADVANCED

の三段階をつくり、一つのレベルを設定することになりました。これらのことは1969年第22回世界会議に於いて世界訓練委員会が出来て、全世界を5つのブロックに分け（北南米、アラブ、アフリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋）昔英国で行われたギルウエルのよい所だけ残して新しく考え出されたものであって、講習会は一般的知識を広め出来るだけ多勢の人に理解して貰う為のもので、これが全世界共通の考え方になって来ました。日本でもスライドを使って極く簡単にボーイスカウトの概要をお話する程度になって来ました。

日本全国から42名の参加者があり、さすがに年輩者ばかりで40才、50才代の人々ばかりでしたが、5名の参加を認められたのは東京と静岡だけで他の県連からは1名ないし2名程度でし

た。集会者の間の話題からみても静岡県が先進県である事を感じ、誇りと責任を自覚しないわけにはいきませんでした。

物凄い程の寒気で朝礼の時だけは全員制服で身の引きしめる思いでしたが、あとはすべて暖房のきいた完成して間もない研修棟で快適な毎日でした。

SCOUT運動の始りやB-Pが、その一生の中でどの時代にどの様な考えが生まれたのか、それらの原理や目的についての研究が前半を占めていた。それからリーダー養成に当てる技法、人に伝える方法についての研究がその中盤であり、開設の手續や業務責任の分担などが後半の研究でありました。とに角、次から次へと設問が出され、頭の中は休む暇もないほど多忙を極めました。資料も後から後からと渡されて分厚いファイルとなりました。

指導者としての訓練は絶えまのない、又いつまでも終ることのないものであると云うことを認識させられました。そして目的と原理は不変のものであって、これを無視したらスカウティングは成り立たない。けれども現実に行う方法については時代の感覚や国家社会の移り変りに従って変化してゆくべきものであると云う考えが、はっきりして来ました。私達はこれから、もっともっと研究をつみかさねて原理を深く理解すると共に最も現代にふさわしい方法でスカウティングをおしすすめるべきであると思います。

ボーイスカウト日本連盟浜松需品部

スポーツ品全般

体育器具・器材設計施工

旭スポーツ店

浜松・連尺町2 TEL 54-4301

より活動の為に

浜松第4団 野口 光一

「THIRD. AUSTRALIAN. VENTURE・報告書」を読んで、その規模の大きなとプログラムの豊富なのと安全性について強い感銘を受けた。特に、オビオビ溪谷ベンチャーハイクについては、参加SSの手記がスカウティン誌上で紹介され、SSリーダーの参考になった事と思う。そこであらためて我々が行なっているSS活動について考えてみた。以下述べる事は、前々より言われている事であるが、アドベンチャーの名前のもとに「安全性」をおろそかにしてはならない。ひとつの事故が何万人と云うスカウト活動の障害になるからである。事故は起こそうとして起きるのではなく、わずかの不注意で起きてしまう。

《専門指導者》

SS活動が活発化しない原因のひとつに指導者の不足がある。肉体は大人であっても精神的には(財政も)中人である。そして活動は、少年隊とくらべ技術も高度になり危険度も増す。何よりも指導者の干渉をきらう。しかし指導者にとっては自分自身の経験もなくマニュアルもなく何をやって良いのかわからない。SSもリーダーも手さぐりで活動しているのが現状である。SSに活動の希望を聞いたところ、冒険、乗馬、スキー、登山、ヨット、パーティー……etcいろいろ出てくる。ではやりたい事を取り入れようとしても経験のないリーダーは手をこまねく。又、少く位いの知識があってもそれは危険度(計画に無理がある)を増す。反面、浜松市内にはいろいろのグループがあり活動している。運動面では、ヨット、登山、スキー、テニス、洋弓、サイクリング……etc。文化面では演劇、コーラス、写真、考古学、文芸、生物……etc数えたらきりが無い。アメリカのエスプローラー活動(日本のSS)には、カウンセラーとかプロフェッショナルアドバイザーと云うスカウト指導者以外の指導者やスポンサーが出てくる。我々SS活動も年間計画を建てたなら、専門的な事はこの人達に援助(助言)を求めたらどうだろう。私が個人的に援助を求めたかぎりでは気持ち良く「OK」してくれている。したがって協力していただける団体の名簿を各団に配布したらどうだろう。同時にSS指導者自身も学ぶ必要がある。それはやる事の技術でなく、「指導する事」の技術である。ルックワイドな良き社会人を育てる目的を我々指導者は忘れてはならない。興味の満足には、計画、実行、反省と次への展開がなくはSS活動にならない。

《海(湖)の活動》

必修条件として「泳げなければならない」「健康でなければならない」そして少くとも1級以上の技能がほしい。私は海洋活動こそSSに一番適していると思っている。せまい船内(協力)広い場所(冒険)高度な技術(訓練)。しかし、その為には設備が必要だ。私は冬に温水プールを利用しての訓練、春から夏にヨット協会の協力でヨット訓練を実施した事がある。利用出来るのはモス級であるので、多人数の短期間の訓練は興味本位で終わってしまう。アメリカ、イギリス、フランス等においてはSS年代より特に海洋活動が盛んである。浜松においても、「カッター」が必要になってきている。海の活動だけで年間プロが組めるので、専門指導者のアドバイスのもとに段階的な(ねらいをどこにおくのか)計画を立てる事が安全につながる。

①水に対しての知識(技能章)

水泳章、溺者救助章、沿岸視察章等

②初歩のセーリング知識(バッヂシステムの初級クラス)

離岸着法、三角コースの習得、レースによる技術の習得、等

③技術の向上(バッヂシステム中級クラス)経験による技術の習得、バッヂシステム、受験、等

《川の活動》

天竜川カヌー下りの経験のある私に、「ゴムイカダで事故を起したのは仲間か?」と問合せがあった。天竜川を自由のきかないイカダで、ライフジャケットもつけずに下るのはナンセンスである。数回に亘る調査の上、行動を起した我々(仲間は掛塚育ちの遊泳協会に属する学校教師)でさえ思わぬ状況により掛塚迄下る予定を二俣で中止している。その時は次の2点で3カ月位準備した。

①地図による危険個所のピックアップと実地調査(地元の人話も聞く)

②弁天島の干満潮においてのカヌー操作訓練

「干草のカコ」とか「月の大うづ」等地元の人からこわさを聞き、実際に味合った。仲間は「もう二度とやりたくない!!」彼でさえこわがるのに経験不足なSSは充分「備え」以上に、を頭に入れて行動してほしい。ライフジャケットと自由のきく乗物、サポート隊との通信方法、天候等確認した上でなければ決して実施してはならない。

《山の活動》

朝霧アドベンチャー訓練に「毛無山を経由して行きたい」と言われ、とまどう

と同時に、しめた!と思った。そして標高2000mに近い山をSSだけで計画し、保護者、リーダーの心配を無事くぐりぬけた。万一これが冬なら私は中止させたであろう。なぜならば冬山において最も大切な事は「保温」だからである。たとえ満腹でなくても保温さえ保てれば命は助かる。47年1月、くたびれはてた上にみぞれに会ったSSは、ようやくの思いで竜頭山小室にたどりついた。そこでかわいた着替とストーブにより翌日も又山に登る事が出来、山頂よりハムで団本部に無事を連絡した。その時も46年秋に準備ハイク(通信と山小屋の確認)を行っている。47年秋の準備ハイクの時は山小屋に燃料がなかった。冬山においては余分な装備よりも保温(防雨、防風、防寒、熱源)と通信方法が必要である。同時に専門指導者のアドバイスを受け、無理のない計画をたてる事が最も必要である。

《通信》

最近、最も喜ばしい事はアマチュア無線の目を見張る普及である。井ノ口隊長の並々ならぬ御努力に頭が下る。あらゆるSS活動でリーダーが一番頭をなやますのは、行動しているSSと連絡がとれない事である。活動すればする程行動範囲が広がる。アマチュア無線クラブの装備の充実と、後継者への講習をさらにお願いしたい。と同時にSS全員がライセンスを取得される様希望する。

《交流》

GSその他の団体との交流があり、保護者からの目で見れば部分的にアベチュールと思われる場合もある。しかし残念な事に、まだまだ交流が少ない。年末パーティーだけでなく、秋のハイクに、春の野外料理に、もっと取入れる必要がある。お互いの理解とエチケットを身につけるにも良い機会である。この事は指導者よりもSSの方がなれていると思うが?……。

以上



～地区大会スナック～

縄 ない

各団のうごき

浜松第1団 (BS)

- 10月28日 浜松地区大会に参加 (CS、BS、SS)
11月3日 浜松12団発団10周年記念式典に参加
11日 CS隊、BS隊合同にて御前崎灯台及び中部電力(株)浜岡原子力館見学。
17日 SS試行隊説明会に出席。
21日 CS隊昭和49年度プログラム会議開催しテーマ決定する。
12月4日 団会議、48年12月より49年3月までの審議、49年度新入隊員の募集要項決定する。
10日 CS隊、BS隊父兄会開催。

浜松第6団 (BS 少年隊)

- 11月8日 ハイキング (袋井市デンマーク牧者)
18日 ソフトボール練習。
12月1～2 グリンパー訓練舎営 (東田町隊ルーム)
尚、12月24日～28日の間火の用心の夜まわりを行う予定。

浜松第12団 (BS)

- 10月10日 廃品回収
20～21日 班キャンプ (住吉青少年の家)
28日 地区大会
11月2日 隊野営、創立10周年記念キャンプ。
3日 12団創立10周年記念式典。
4日 隊野営 2～4日迄住吉青少年の家にて野営。
23～25日 住吉青少年の家グラウンド、ソフトボール練習。
12月2日 西部ブロックソフトボール大会、広沢校グラウンド。
30日 耐寒ハイク、三方原一周 (CS隊)
10月13～14 飯田 (長野県) 1団CS隊訪問交歓
28日 地区大会参加
11月3日 創立10周年記念式典
11日 CS鼓隊ヤマハ運動会出演
22～25日 CS隊長山中野営場リーダートレーナーコースに参加 (SS隊)
10月20日 シニア隊集会、編集その他
11月3日 スカウトシニア第3号発行
12団10周年運営奉仕、司会進行実施

浜松第15団 (CS隊)

- 10月 テーマ (収かくの秋)
自作のさつまいも堀を兼ねる
11月 テーマ (カブの新聞社)
12月 クリスマス
BS隊)
10月 進歩 (技能章の勉強・進級章)
11月 健康 (スポーツの秋・ソフトボール練習)
12月 クリスマス (劇の練習・23日クリスマス)

浜松第16団

- 7月28～29 カブ舎営、奥山研修センター
9月30日 カブピクニック、中田島海浜公園
10月14日 16団廃品回収

浜松第19団 (少年隊)

- 11月4日 ハイキング、細江町
18～25日 ソフトボール練習、南庄内小学校
12月2日 西部ブロックソフトボール大会、広沢小学校
(年少隊)
11月18日 ハイキング、天竜市

浜北第1団 (BS隊、CS隊)

- 10月14日 自転車ハイク→二俣鳥羽山にてロープによるレインジャー訓練をする (BS)
28日 浜北ライオンズクラブ20周年記念大会に道案内、駐車場整理の奉仕をする (BS)
浜松地区大会に参加 (BS、CS)
11月のテーマ 「ぼくは左甚五郎」CS
11月3日 自転車ハイク→浜北市歩け歩け大会に参加、森林公園内の紙くずの清掃後、自転車で小堀谷の鐘乳洞に行き洞内の探検をする (BS、CS)
23日 オリエンテーリング→浜北パーマメントコースで実施する (BS)
12月のテーマ 「かいばおけの王」CS
12月1日 浜北交通安全パレードに参加 (BS)
16日 歳末たすけ合い募金→街頭募金を班ごとに実施する (BS)
23日 クリスマスの集いを実施 (CS)
28日 たすけ合い募金を市福祉事務所、手をつなぐ親の会へ贈る別にのし餅にして天竜厚生会内の百々山寮、あかいし学園厚生寮に贈る (BS)
1月1日 浜北市平口不動寺裏山に新年初日の出選拝式を行う (BS、CS団委員及び父兄)

可美第1団 (BS)

- 10月28日 地区20周年記念大会参加
スカウト・リーダー・団委員20名
11月25日 体力づくり山岳ハイキング、愛知県民の森
12月10日 高塚駅前歳末街頭募金
23日 クリスマス会 (CS合同) 班別対抗劇上演、可美幼稚園プレゼント交換
30日 各字神社清掃 (CS合同)
1月1日 新春歩こう会、BS交通整理奉仕
(CS隊)
10月28日 地区20周年記念大会参加
スカウト・リーダー40名、団委員・リーダーによる「大昔の遠州」劇上演
11月10～11 年少隊指導者講習会受講
大東町 3名

- 18日 ソフトボール大会、高塚グラウンド
25日 ハイキング・月例隊集会
愛知県民の森
12月23日 クリスマス会 (BS合同) 可美幼稚園
新隊長・副長任命式、組別対抗劇上演、団委員・リーダー劇及び手品を上演、プレゼント交換

細江第1団

- 10月 地区大会 (細江町にて開催)
11月 長野県茅野第1団・飯田第1団リーダー来訪する
49年2月舎営打合せする (豊岡研修センター)
カブ隊スカウト廃品回収作業をする (細江農協マーケットに於て)
12月 BS隊、町内カーブミラーの清掃奉仕する
CS隊、十字の園訪問、老人たちの慰問をする併せて奉仕作業をする

* お便りを頂きましたもののみ掲載しました。今後積極的な御しらせをお待ちしています。

BS金言集

- 青年は希望を持つ事によって強くなり、老人は満足する事によって心をなぐさめる。と言われている。
青年は、希望を持って前方を見、老人は満足してあたりを見廻す。
- 若い人達には、希望を持って前進しなさいと私は言いたい。
楽観主義を織りまぜ、困難にも調和を持って対する事が出来る。
ユーモア感でやわらげなさい。
- 漁夫が、自分の好きな餌を針につけて釣りをしても、かかる魚は少なからう、魚の好む餌をつけることだ。
- 自分の子供にだけでなく、他人の子供までも良く育てようと心がける人以上に神々しい目的に向かって進んでいる者は他にはない。
- 心明るく、輝やくひとみ、少年の名はそれは未来、希望にあふれてはつらつと、夢を開拓して明日を呼ぶ、友情つきぬ、スカウト我等。
- スカウティングは中道を進む、バランスの教育である。
左でもなければ、右でもない。
そのどちらへも片寄ってはならない。
- 教育とは、確信しきった無知から、思慮深い不確信へと人を発展せしむるものである。
- 狂信者とは、考える事が出来ず、又主観を変えようとしぬ人と言う。

○子を養って教えざれば、父母の過ちなり。教えて導くこと厳ならざれば、師の怠りなり。父母教え、師厳しくて、道のならざるは、子の罪なり。

○スカウティングは、深遠難解な科学ではなく、間違いなく理解すれば、むしろ楽しいゲームなのである。同時にこれは教育であり、Mercy—あわれみ—と同じように、それを受けるものと等しく、与えるものにも役立つことが多い。

○スカウティング独自の生命は、ウッドクラフトにあるようだ。明確な信仰は、これによって励まされると思う。ちかい、おきてが、信仰と一体でなかったら、その意味はなくなる。

○「行うことによって学ぶ」「なすことによって学ぶ」
失敗は恥ではない。しないことが恥である。スカウティングは、経験することによって、自らを啓いて行く教育である。

○指導者はその対象とする者をよく知らなければ、よい指導をすることは出来ない。
自分の中に少年の心を持つことである。

○少年は親の言うことを聞いて育つものではなく、親の態度や行動を真似して育って行くのである。
少年の指導者として、心すべきことである。

乳岩のキャンプ

浜松18団 杉浦一彰

11月2日～4日まで乳岩にキャンプに行った。ぼくはこのキャンプでいろいろなことを教えられ、体験したりしたことがまだ心の深くまで残っている。ボーイスカウトに入団してよかったと思う。

特に忘れないのは、18団始まっていろいろの夜間のせつえいである。このときは荷物を運んだことや、テントとそっこうしかできなかったことがくやしい。あのときに、フライや食たくなどを作っておけばよかったと思っている。けど、ふりなことは3人しかいなかったことだ。でも2人のところがあるので、ぼくは「かわいそうだな」と思いながらネた。

2日目のおもな行事として2つあった。1つはソングだった。隊長はいつも「18団のけっ点は、歌っているときは、とてもちいさいこえだな」と、いつも、くどく言うので、ぼくは「ほんとにうるさいなあ」と心の中で思う。ほん心は「ほんとにカの鳴くような声だ」と思うので、これから大きな声で歌いたいといつも反省する。

そして1つは、きれいなハイキングである。みんな「ハーハー」と言いながら山道を登って行く。ぼくも、ときどきじょうだんをいいながら歩いていき、乳岩につくと「すごいなあ」とぜっべきを見上げていた。そして6コ班が同じになってしまい、ぜっべきをおりた。そのときは

みんな「もう死んでもいい」と考えていた人も多いとおもう。一歩足をふみはせずせば「ア」といううちに下の方までいってしまう、みんな緊張な顔をしていた。下の方がみえたら緊張かんは、ふっとんだようなかんじがした。そして、やっと道にでた。このときこそ生きていてよかったと思った。そして、みんなの目はとても光っているようにみえた。

今、こうゆうような体験文を書いていると、どんだん頭の中にえがかれてくるハイキングのときは、くじけず最後まで一歩、一歩と歩いたことは死んでもわすれないと思う。雨も降らず、何ごともおこらなかったことは、よかったと思っている。

うごき

- | | | |
|--------|--|---|
| 10月19日 | 中央ブロック会議 | イザカヤ |
| 23日 | 地区大会実行委員会 | 法林寺 |
| 26日 | 地区大会 | 〃 |
| 27日 | カブリーダー特技研究会 | 法林寺 |
| 28日 | 地区大会 | 細江中学校講堂及細江公園一帯 1,500余名の参加によって盛大に終る、特にボーイ関係は雨天をついてのオリエンテーリング |
| 11月1日 | ヒリピン派遣員浜松派遣員集会 | 法林寺 |
| 3～4日 | ヒリピン派遣員訓練 | 静岡市青少年センター 浜松地区18名参加 (L4、S14) |
| 10日 | 地区コミ会議 | 静岡日生ビル2階会議室 |
| 11日 | 10団小野田SS隊長結婚式(第2ボール) | |
| 13日 | カブリーダー反省会 | 木戸公民館 |
| 15日 | 団委員講習会本部員打合(参加者少数により延期) | |
| 17～18日 | 県下シニア試行隊説明会 | 静岡青少年センター (11名参加) |
| 22日 | シニアリーダー反省会 | 市川重雄事務所 |
| 12月5日 | 地区内コミ関係者会議 | 法林寺 初日出選拜式及ソフトボール大会決勝の件 |
| 6日 | 指養委 | 中沢町神楽坂 |
| 9日 | 地区リーダー忘年会 | 法林寺 (フィリピン派遣壮行会兼) |
| 10日 | 組織拡張委忘年会 | 法林寺 |
| 16日 | フィリピン派遣員集会 | 静岡浅間神社 |
| 19日 | 地区委員会忘年会 | 法林寺 |
| 23日 | 地区シニア(看護学院生)パーテー | 楠会館 |
| 23日 | 19団5周年記念式 | 富塚幼稚園 |
| 24日 | フィリピン派遣員18名(L4 S14)福世、山下二三、柴田各リーダー他14名出発 | |
| 30日 | 地区倉庫引渡式 | 鴨江観音境内 地区委員長他 中田島砂丘 初日出選拜式ボール設営準備 竹村他 |
| 31日～ | 対寒キャンプ | 中田島砂丘 |
| 1月1日 | 20団12団SS、18団BS他 | |

盛大終了 12団10周年祭

去る11月3日菊薫る文化の日、住吉町青少年の家広場において来賓多数を迎へ修了する。特に友隊10数ヶ隊代表並スカウトおよび半田市、飯田市、東京、ちの市の各友好を暖めているリーダー代表、日連先達県連副連盟長尾崎先生、地区役員多数のご列席が花を添え、和気あいあいのうちに終幕を飾る事が出来ました事を紙上を通じお礼申し上げます。



倉庫

受渡式終る

浜松地区倉庫の受渡式が暮もおし迫った12月30日鴨江観音境内にて、ライオンズクラブ(中嶋、金森ライオン)から正式に受渡式が完了する。ボーイスカウト側から内田地区委員長、三輪地区コミ、竹村野営行事委員長、井ノ口副コミ、牧野事務長、柴田事務次長が参列し、なごやかなうちに修了する。
尚、内田嘉一県コミも見えられ素晴らしく書きあげてくださった倉庫の標識を囲んで記念写真を撮る。十二分な利用と、地区スカウト活動が益々発展されん事を祈る。

あとかき

- 今回は特に県連から稲森理事長、尾崎副理事長より原稿を頂き感謝に堪えない。今後ともよろしく願いたい。
- 中東戦争、石油危機、物不足、インフレとめまぐるしい世相の中に昭和49年の新春を迎えて、ただ不安とあせりではどうにもならぬ。過去幾多の試練を耐えぬいた日本国民である。皆、心を合せて昭和49年を乗りきりたいものである。
- 地区結成20周年にふさわしい頁数と思ったが、御らんの通りの結果になってしまった。何れにせよ編集関係者一同の努力の足らなかったものである。唯現在の世相を考慮して御批評を頂くならば幸甚とするものである。(T生)

発行所

第54号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
TEL 54-0178
編集発行責任者 杉山友男
昭和49年1月20日発行